

平成29年度 豊富小学校 校内研究について

1 研究主題

自ら学びを深める児童の育成 ～授業改善と家庭学習の取組を通して～

2 主題設定の理由

(1) 学校教育目標において

学校教育目標

「心豊かに、かしこく、たくましく生きる子どもの育成」

めざす子ども像

- ・ 進んで学び、深く考える子ども(知)
- ・ 感性豊かで、思いやれる子ども(徳)
- ・ 命を大切にし、がんばる子ども(体)

生涯にわたって生きてはたらく確かな学力を一人ひとりの児童に保障することが、学校教育の使命である。知識・技能の習得とともに、自ら学びに向かい、思考・判断・表現しながら学びを深める力を育成することは、児童がこれからの生活を自分で切り拓いていくかしこさやたくましさにつながる。

児童が意欲的に学ぶ質の高い学びを実現する授業づくりと家庭学習を充実させる取り組みにより、本主題「自ら学びを深める児童の育成」をめざしていき、学校教育目標の具現化を図っていく。

(2) 地域や家庭・子どもの実態から

本校は、中央市の中でも農村部の旧豊富地区に位置し、かつての一村一小学校時代の伝統を受け継いで、地域と学校との結びつきが強く、学校に対し協力的な地域である。また、授業参観や学年懇談会への保護者の出席率も高く、学校への関心が高いことがうかがわれる。地区懇談会や学校開放日など、家庭や地域と共に児童の教育について考える行事が今も行われている。一方、長く続く不況の影響から、本地域も他地域と同様、仕事や日々の生活に追われている家庭が増えつつある。

児童は、明るく素直で、友達や他学年とも進んでかわり、地域の自然や文化に親しみながら生き生きと生活している。学習においては、学習への意欲が高く、与えられた課題に対して真面目によく取り組む児童が多い。しかし、各種学力調査などからは、情報を読み取り、そこから課題を見出し、適切に考え、表現していくことについて課題があり、学力向上は喫緊の課題である。授業と家庭学習の両面から自ら学びを深めていく力を育成していく必要があると思われる。

（３）近年の国及び山梨県の教育の動向から

全国学力学習状況調査が行われるようになって、今年で11年目になる。この10年間学力向上に向けて数々の取組が全国的になされ、日本の子ども達の学力は国際比較の中で回復傾向にある。山梨県でも、学力向上対策事業として県独自の学力状況把握調査を行い、授業改善プランを作成したり、学力向上プロジェクトとして一校一人一実践に取り組んだりして授業改善に取り組んできた。また、昨年度は県から授業づくりの視点として「やまなしスタンダード」が示され、保護者や学校に「家庭学習のすすめ～学びの甲斐善八ヶ条～」が配布された。今、学力向上に向けて、授業改善と家庭学習の定着・促進の取組が急務とされている。

一方、これからの社会の変化に対応するため、学習指導要領の改訂作業も急速に進んでいる。次期学習指導要領では、子供たちが未来社会を切り拓くために育成すべき資質・能力の3つの柱として「個別の知識技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」が掲げられ、「主体的・対話的な深い学び」をめざしていくことが発表された。

このような教育の動向を踏まえ、平成29年度山梨県学校指導重点では、

「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を充実させることや家庭学習と授業を有機的に結びつけることに努め、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。
--

として、「やまなしスタンダード」の深化に努める取組と家庭学習と授業を有機的に結びつける取組が学校現場に求められた。

これらを受け、本校でも「やまなしスタンダード」を意識した授業づくりと家庭学習を推進・充実させる実践的な研究を行い、児童の主体的な深い学びに結びつけていきたい。

（４）研究のあゆみから

本校では、「自ら学び、考える児童の育成」を研究主題に掲げ、一昨年まで「学び合いを大切にしたい授業づくりを通して」というサブテーマで4年間研究を行ってきた。その中で、児童相互の「学び合い」を授業の中で組織し、学び合いを深めるための手立てを工夫して授業を改善していくことで、学習意欲の向上や思考力・表現力の育成に一定の成果を得ることができた。また、「基礎基本の定着」や「学習集団づくり」・「学習環境づくり」とともにトータルに取り組んでいくことにより、自ら学び、考える児童の育成に更に迫ることができた。

そして、昨年度は、中巨摩学校食育推進研究会研究推進校の指定を受け、「すこやかな体づくりを目指して」というサブテーマで食育や健康教育の面から「自ら学び、考える児童の育成」に取り組んだ。

今年度は、再び児童の学力向上をめざして、「自ら学びを深める児童の育成」という研究主題で研究を進めていく。特に、授業づくりと家庭学習の定着・充実に重点を置いて研究を進めることで、児童の学習意欲の向上や主体的・対話的な深い学びにつなげていきたい。

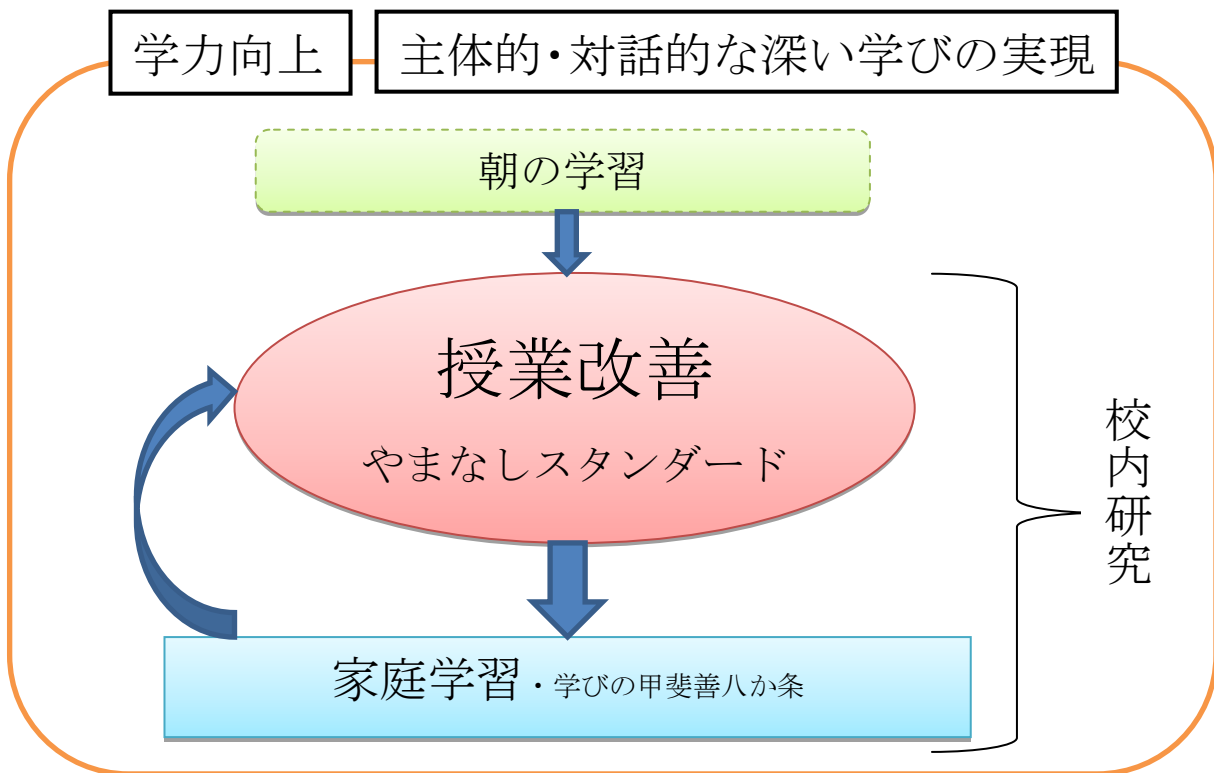
3 研究目標

やまなしスタンダードを意識した授業づくりを通して授業を改善し、家庭学習を推進することにより、自ら学び、深める児童の育成に迫る。

4 研究においてめざす児童の姿

- (1) 学んだことを身に付け、それを生かしながら探究していく子
- (2) 意欲的に考え、自分や友達の考えを大切にする子
- (3) 友達とともに学び、自分の言葉で表現する子

5 研究の構想図



6 研究内容と方法

(1) やまなしスタンダードを意識した授業改善

- ・やまなしスタンダードについての理解を深める。（講師を招聘し、学習会を行う）
- ・やまなしスタンダードを踏まえ、各自がめあてを決め、日常の授業改善を行っていく。
（PDCAサイクルで、自分の授業の評価と更なる改善を行えるようにする。）
- ・2学期に一人一実践の授業開示を行い、事後研究会を簡単に行う。（学級担任・教務主任）
- ・ブロック代表による実践提案授業と事後研究会を行う。（一人一実践を兼ねる）
- ・授業開示及び実践提案授業の様子や事後研究会で出た話題は、授業者が研究通信を発行してみん

などで共有し、学び合えるようにする。

※同様の資料が、高校、特別支援学校にも配付されています。

やまなしスタンダード

●授業づくりの7つの視点

- ① 授業の始めに児童生徒に授業のめあて（目標）を示している。
- ② 話し合い、討論、発表などの言語活動を効果的に取り入れている。
- ③ 児童生徒は、他の人の話や発表に耳を傾けている。
- ④ 児童生徒は、ノートをとっている。
- ⑤ 活用・探究など、学んだことを別の場面で使うようにしている。
- ⑥ 授業や単元の終わりに、児童生徒がめあて（目標）を達成しているかを評価している。
- ⑦ 家庭学習（宿題や課題）と授業が、有機的に結びついている。



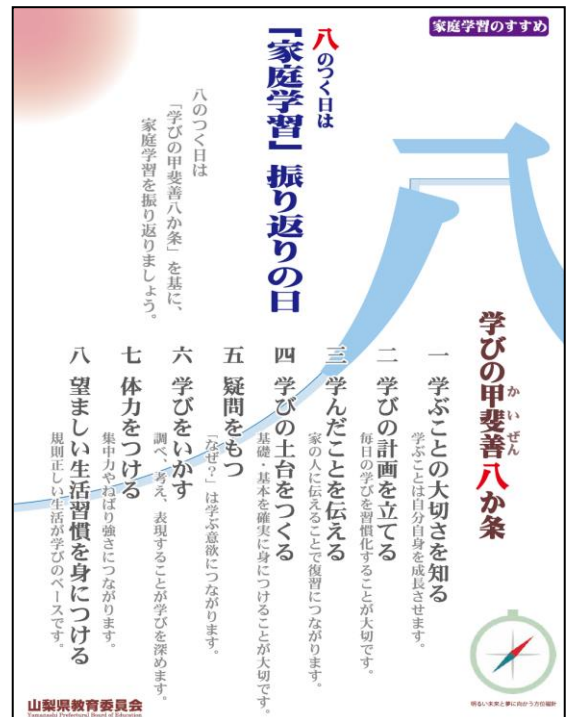
(2) 家庭と連携した家庭学習の取組 (学びの甲斐善を活用)

学校での取組

- ・望ましい家庭学習の在り方や内容を学習する。
(講師を招聘した学習会，先輩教師による情報提供)
- ・授業と家庭学習を有機的に結びつける。
 - ・宿題の工夫を行う。
(量だけでなく、質の向上を…)
 - ・自主学習に結びつける工夫を行う。
(自主学習ノートの導入，その他)
 - ・家庭学習を授業に生かす。
- ・家庭学習に結びつく学習環境を整備する。
(学習掲示の工夫，自主学習の展示等)

家庭に向けての取組

- ・家庭学習を習慣化させる取り組みを行う。
 - ①家庭学習の手引きの活用
(中央市版の冊子，掲示用に本校版等)
 - ②八のつく日に「家庭学習」振り返る
(8のつく日の振り返りカードの取組)



(3) その他

- 夏休みの校内研究は，独自に学習・研修できるような内容を行う。
(来年度からの道徳の教科化に向けて道徳，新学習指導要領に向けて英語等)
- 他校の研究会参加を推奨し，積極的に還流報告を行う。(校内研究の中で，もしくは回覧)

先進校視察（道徳・英語・アクティブ・ラーニング研究校等）

- 研究に必要な教具・書籍・講師等については、校長・教頭・事務職員と相談しながら、講師の要請、予算の獲得、教材・教具の購入を行っていく。
- 学校便りなどで教師の取組を紹介したり、PTA活動で家庭学習の推進も行ったりし、家庭の協力が得られるようにしていく。

6 研究組織

- 授業研究部・・・PDCAサイクルを取り入れた授業改善、及び授業と連動した家庭学習の取り組みを実際に行う。

低学年ブロック・・・○齊藤・前島・畑野・三井（甲田）

高学年ブロック・・・川口・木村・○武井・野呂瀬・花輪・重松

- 家庭学習推進部・・・家庭学習を推進するために取り組む。

（家庭学習の実態を把握し、家庭学習振り返りカード等、家庭学習の習慣化をめざした取組を行う。担任向けに家庭学習の例の紹介なども行う。）

校長・教頭・○志村・磯部・花形・大久保・山寺

7 研究日程（○番号は校内研究日） 司会・記録については、職員会議に準じる。

研 究 日	形 態	内 容	提案者 担当者	司会 記録
4. 24（月）	全体会	①今年度の研究計画について （研究主題・研究内容・研究組織・研究計画の検討・決定）	研究主任	1 年
4. 28（金）		・家庭学習の手引き等を学年総会にて配布		
5 月初～中 5 月中旬		・授業・家庭学習の実態把握 （担任へのアンケート・第 1 回児童への実態調査） ・家庭学習 8 のつく日の振り返りカード作成 （家庭学習推進部）		
5. 31（水）	全体会	②学習会 「山梨スタンダードと家庭学習のあり方」 講師 中央市教育委員会 横森一哲教育指導監	講師	2 年
6 月～		・家庭学習 8 のつく日の振り返りカード取組開始		
6. 14（水）	全体会 部会	③授業や家庭学習の分析と課題の焦点化 部会研究・・・（各部・ブロック）の研究計画づくり （研究の方向性・ブロック研究の計画・実践提案授業の授業者決定）	研究主任 B 長	3 年
6. 28（水）	部会	④部会研究・・・各部（ブロック）の研究計画で	B 長	
7. 12（水）	全体会	⑤1 学期の取組の交流		4 年

		授業研究部（ブロック） ・・・各自の授業改善の取組の紹介 家庭学習の取組の紹介 家庭学習推進部・・・家庭学習の経過報告		
7. 24（月）	全体会	⑥校内研修（学習会） 道徳・・・講師 中北教育事務所 越水久也指導主事	講師	5 年
8. 30（水）	全体 部会	⑦実践提案授業に向けて （授業案の形式・観察の視点・事後研究会等） 部会研究・・・各部（ブロック）の研究計画で	研究主任 各 B 長	6 年
9・ 6（月）	部会	⑧部会研究・・・各部（ブロック）の研究計画で	低・高 B 長 授業者	
10・11 月		一人一実践の授業開示と事後研究会	授業者	
10. 18（水）	部会	⑨部会研究・・・各部（ブロック）の研究計画で	各 B 長	
10. 25（水）	全体	⑩授業案検討 2 本	低・高 B 長 授業者	1 年
11. 15（水）	全体	⑪実践提案授業・全体会での検証（高学年ブロック） 6 年国語 「この絵、私はこう見る」 授業者 野呂瀬 健	授業者	各 B で
11. 22（水）	全体	⑫実践提案授業・全体会での検証（低学年ブロック） 2 年算数 「かけ算（2） 九九をつくろう」 授業者 前島 洋彦	授業者	各 B で
12. 6（水）	部会	⑬部会研究・・・各部（ブロック）の研究のまとめ ・授業・家庭学習の第 2 回児童への実態調査	各 B 長	
1. 17（水）	部会	⑭領域別教育の実践報告（保健・図書・給食） 各部（ブロック）の研究のまとめの報告 実態調査の結果の考察 研究紀要について	各担当 ブロック長 研究主任	2 年
2. 7（水）	全体	⑮研究のまとめ	研究主任	3 年
2. 21（水）		⑯研究予備日		

※司会・記録は提案者との兼ね合いを見ながら、各学年に順にお願いする。

※ブロックの研究会は各ブロックの必要に応じて、研究計画日以外の日でも随時行うことができる。

※授業開示の日程については、研究主任と相談し、重ならないように調整する。

※授業開示の事後研究会で出た話題や授業の中の学んだことなどを授業者が A4 一枚（研究通信）にまとめ、職員全員に配布、還流する。

※学習会の講師や研究授業の助言者、授業開示のアドバイザーについては、今後校長先生と相談し、お願いするため、先方の都合で日程等は変更になる可能性もある。

参考資料

近隣の先進校

◇やまなし道徳教育研究推進事業（中北・峡南ブロック）

（平成２８～３０年度） 甲斐市立竜王北中学校，富士川町立鰍沢小学校

◇学力向上アクティブ・ラーニング推進事業

（平成２８・２９年度） 北杜市立明野小学校

◇平成２７～２９年度文部科学省指定 英語教育強化地域拠点事業

南アルプス市立白根飯野小学校

昭和町立押原小学校，常永小学校，西条小学校